



発行 36年9月19日

美濃加茂市

災害対策本部

電話2111番

台風災害特報

農作物に甚大な被害

伊勢湾台風につぐ最悪コース

|| 家屋一四〇戸余を全半壊 ||

超大型台風として心配されていた台風十八号は九月十六日、最悪のコースをとって午前中には暴風雨圏にはいり、本県の西側に最も接近し通過した午後三時を峠として市内の瞬間最大風速四二米を記録し、伊勢湾台風の四五米につく暴風雨となった。

市においては、伊勢湾台風の経験を生かし、前日より災害対策本部を設置し、台風の進路などの情報を把握し、それに基づいて加茂警察署、市消防団と連絡しつつ警戒体制を強化し、十六日未明最悪のコースに入ることが予想され市民の避難所を設置し救助体制を整えたと共に広報車や消防団員を通じて末端に伊勢湾台風に通ずる被害を予想して、最悪な準備と警戒を呼びかけた。

市民の手ざわのよい準備と警戒により、午後三時を峠として前後、一時間近く激しい暴風雨にさらされながら、被害が最少限に食い止められたことは不幸中の幸であった。

市災害対策本部では、即日災害調査にかかるとともに復興対策に万全を期している。

全半壊住家に見 舞金と見舞品

住家に被害を受けた被災世帯のうち、全壊は五千円、半壊には三千円の見舞金を

市税の軽減

おくる。又見舞品は毛布と日用品をおくる。
被害を受けた家屋等の固定資産税や、商品、家財、農

産物の著しい被害を受けたものなどの市民税等については、具体的に調査し考慮したい。国税の減税についても関係機関に協力に要請している。

融資の斡旋

復興資金として市中小企業融資を貸出し、国民金融公庫等の融資の斡旋をする。共に団体や、組合、会社については中小企業金融公庫や、県の信用保証協会の融資の斡旋をし災害融資の指定をうけるよう関係金融機関に陳情する。(農業関係は裏面を参照下さい)

復興資材と労務などの確保を計かる

災害対策本部では、市内金物店を始め各業者と、また大工、左官等の建築業組合などに協力を要請して復興資材の確保と円滑な供給ができるようにするとともに大工、左官などの業者に災害復旧を最優先するようにした。

謹んで

お見舞申し上げます

災害対策部長 渡辺 栄一

十八号台風による被災者を始め、市民の皆さんに心よりお見舞申し上げます。

伊勢湾台風の経験に基づき十五日に災害対策本部を設置し、災害救助の万全を期して参りましたが市民各位の未だの準備と警戒により伊勢湾台風と同じ超大型台風であつたわりに被害も少かつたのは不幸中の幸いでありましたが、家屋の全半壊された被災世帯を始め、後りの秋を前に大きな被害を受けられた被災世帯の皆様は心よりお見舞申し上げます。この復興については十九日の市議会全員協議会において具体的に決定し緊急を要する措置に着手いたします。どうか市民各位には互に励ましあい、この災禍を乗り越えられるようお願いいたします。

瞬間最大風速四二米

瞬間最大風速四二米、平均風速一六、七米を記録し、気圧は午後二時より三時まで九六二ミリバールで暴風雨圏内に入つてからの雨量は三三ミリであり、今回の累計雨量は一九五ミリであつた。
伊勢湾台風においては瞬間最大風速四五米、気圧九五四ミリバールであつた。
(美濃太田保護区調べ)

災害の陳情

十九日議会終了後市長以下関係課長と議会代表者が協議し、復旧対策について県知事を始め各部長及び関係機関に陳情する。



伊勢町島之詞意内全壊住家

台風後の農産物応急処置

【稲】 完熟している稲は早く刈取る

Ⅱ 溝立して早期排水Ⅱ

倒伏した水稲早生種及び陸稲のうち完熟して水(土)についているものは3〜4日にして穂登芽をはじめるので早期に刈取りヘダに掛けて乾燥する。倒伏した稲のうち未熟のため刈取りの出来ないものについては、または竹竿をおして穂を上げ、穂先をたすける。(稲の穂先をワラで縛ることはなるべく避けること)

【秋そ菜】 蒔直しの方が成育が早い

Ⅱ 病害虫の消毒Ⅱ

播種後日浅く発芽して間もないものは、被害が激しいから蒔直しする。(特に漬物用大根等については蒔直しを行つた方が成育が早い) また発育中の白菜、甘藍等については病害虫の発生が考えられるからダイセン(一〇〇倍液)を散布する。

農作物の被害

一億五千万円を超す

秋の秋を前に農作物の被害は大きく水稲の倒伏八〇〇ヘクタールに及び、その被害は一、二〇〇トン(約八千石)とされ、また畑作も被害の深刻に近いたる被害も甚大である。また山の上の果樹園では二十世紀梨など収穫は伸びたといえ、落葉の被害は大きく、また柿など落葉、落葉の被害はもとより来年度の被害も懸念されるものとして、極めて甚大な被害となつた。こうした被害に対しては、農業共済による措置なども

一〇〇〇倍液) エドリン五〇〇倍液) を散布するとよい。

玉葱、菜種等の苗床をして

いるものに対しては乾いた土をうすく覆い根元を保護する。

その他かるく中耕して酸素を供給すると共に、少量の硫酸を撒いて遅れた成育を促すことが大切である。

【果樹】

病害虫防除の消毒

落葉防止に24D

果樹等に対しては損傷した枝は傷口を削りビニローを塗る。裂けた枝はもとにもどし「かすがい」を打ち、固定するため、全部打さぬようにする。ビニローを塗り覆う。病害虫の発生については炭疽病(特に柿)の発生が懸念されるからダイセン(一〇〇倍液) または8斗式ボルドー液を散布する。

又落葉を防止するため二、四D(十萬倍液)又は二、四、五D(十萬倍液)を散布するとよい。

その他こわれた樹の補修、梨及びヘタ虫の被害果(柿)は早急に果実を処理する。

【養蚕】

四、五令は桑葉給与

各養蚕家毎に被害程度を詳細に調査し、飼育費見と桑葉量を勘案し、養蚕普及員とよく相談して養蚕の調整を図る。

被害桑葉の給与にあたっては全桑園を見てまわり、被害のかるいものより漸次給与する。(特に四令養蚕期以後眼前に際しては良質なものを選択給与する)

又四、五令は努めて桑葉給与を要する。

避難所を設置

千余名が避難

各町の堅固な公共施設を中心に避難所を設けしたが、東中学校(二八〇名) 中央公民館(二六〇名) を始めとして太田小、古井教養山之上小の避難所を始め、役所と一般のご協力いただいた美濃加茂電話局、郵便局、多治見信用金庫支店など合計千余名が避難した。

強化された

災害救助隊

市では九月一日付で、市の水防隊と災害救助隊を一本化して強力な災害救助隊に改編成していたが、十五日には本部を設置し市長自から陣頭指揮にあたつた台風十八号の発生とともに、情報部において気象情報の迅速な把握とこの広報につとめるなど各部とも効率的な活躍を続けている。

一般住家の台風警戒に協力

美濃加茂職業訓練所訓練生

加茂高校青年寮生、神代

十六日暴風雨圏内に入る前より一般民家などの戸締りを始め、未熟の準備と警戒に協力するなど地域住民より感謝されている。

18号台風被害状況(18日PM 5時)

種別	区別	被害数量	単位	被害額
人	死亡	1	人	876
	死傷	2	人	128
	全壊	18	棟	1,620
	半壊	65	棟	3,250
	床上浸水	52	棟	1,560
	床下浸水	137	棟	6,780
	全壊	42	ケ所	876
	半壊	51	ケ所	128
	床上浸水	33	ケ所	1,500
	床下浸水	19	ケ所	665
計				3,165
家	住宅	796.5	ha	84,770
	畑	471.7	ha	20,068
	果樹園	412.0	ha	25,218
	桑園	72.0	ha	29,400
	計	1,752.2	ha	159,456
農	田畑	150,000	本	1,792
	果樹	730	件	15,400
	計			176,648
総計				186,597